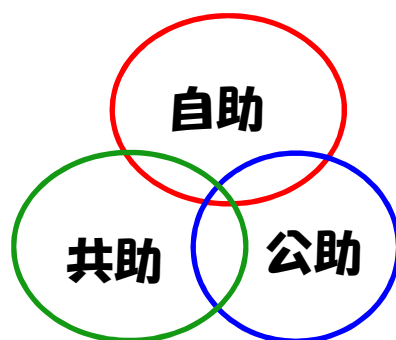


安城市校区別地震防災カルテ

学区：新田小学校区



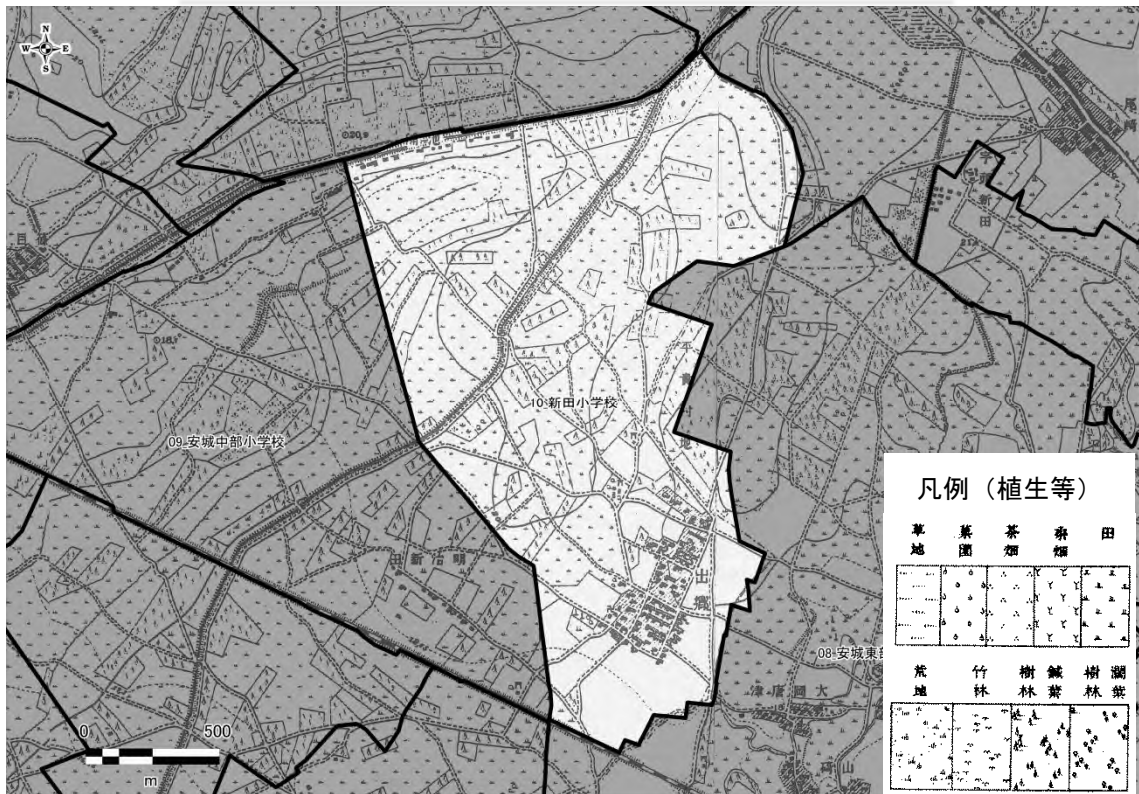
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

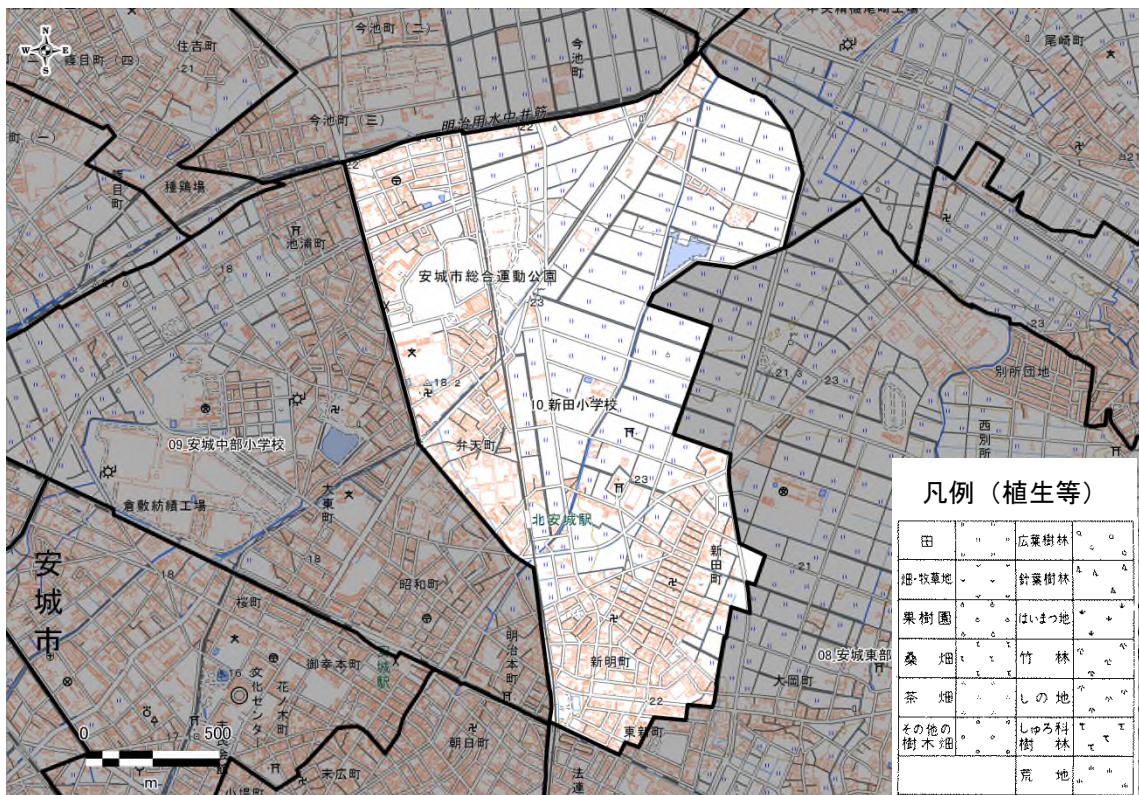
目 次

新田小学校区のむかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

新田小学校区のおかしと今

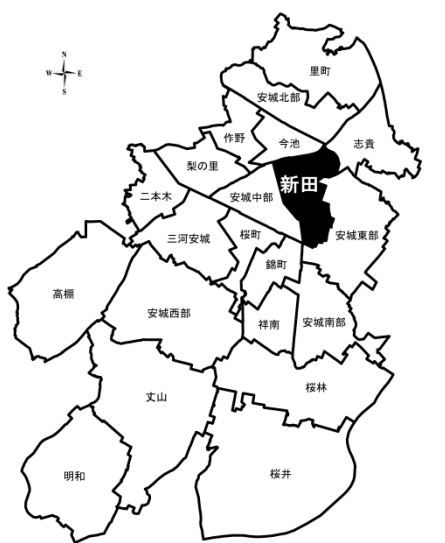


むかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形

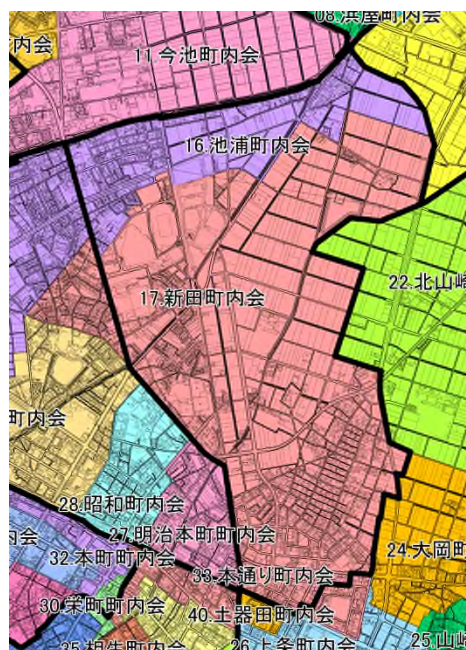


今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



校区面積約 2.52km²
(安城市全体の 2.9%)



町内会区分図

2. 校区の構成

弁天町、新田町〔追田・池田上・上小入道・郷西・郷東・新定山・縦町・出郷・弁天・稲恵・新栄・宮町・吉池・新定・小山(市道大東住吉線以東)・小山西(市道大東住吉線以東)〕、新明町、東新町 1 番から 8 番まで・9 番(同町 20 番 5 以西)・10 番〕、池浦町〔池田上・曲尺手・池上・池東・大山田上(市道大東住吉線以東)・小山西(市道大東住吉線以東)〕

3. 校区の概要

【位置】新田小学校区は、市の中心のやや北東に位置する。

【土地】標高は高く平地が広がっている。

【土地利用】東部に田畑が広がっている。

西部と南部に住宅が集まる。

【交通】東部に県道豊田安城線（76 号線）・県道安城桜井線（286 号線）が通っている。

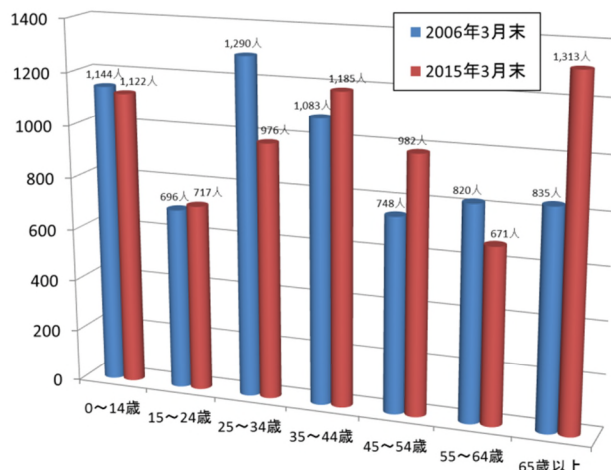
西部に名鉄西尾線が通っており、名鉄北安城駅がある。

【その他】町内会は、新田町内会と池浦町内会

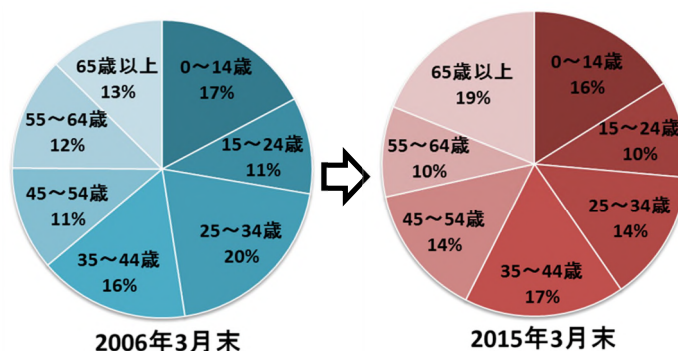
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,144人	17%
15～24歳	696人	11%
25～34歳	1,290人	20%
35～44歳	1,083人	16%
45～54歳	748人	11%
55～64歳	820人	12%
65歳以上	835人	13%
人口(合計)	6,616人	100%
人口密度	2,625人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	2,530世帯 (対全市 4.2%)	

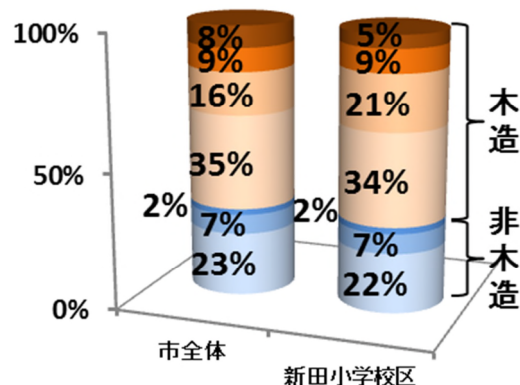


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,122人	16%
15～24歳	717人	10%
25～34歳	976人	14%
35～44歳	1,185人	17%
45～54歳	982人	14%
55～64歳	671人	10%
65歳以上	1,313人	19%
人口(合計)	6,966人	100%
人口密度	2,764人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	2,841世帯 (対全市 4.1%)	



【建物棟数】(2011年12月)

	建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	97棟 5%
	昭和37～46年	172棟 9%
	昭和47～56年	421棟 21%
	昭和57年以後	689棟 34%
非木造	昭和46年以前	46棟 2%
	昭和47～56年	147棟 7%
	昭和57年以後	449棟 22%
建物棟数(合計)		2,021棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数 (校区／全市)		校区: 802 / 全市: 699(棟/km ²)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

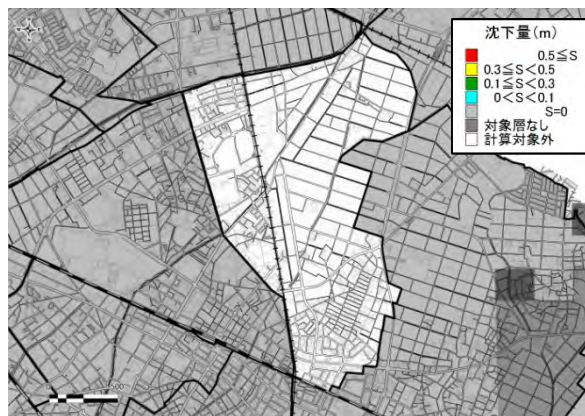
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



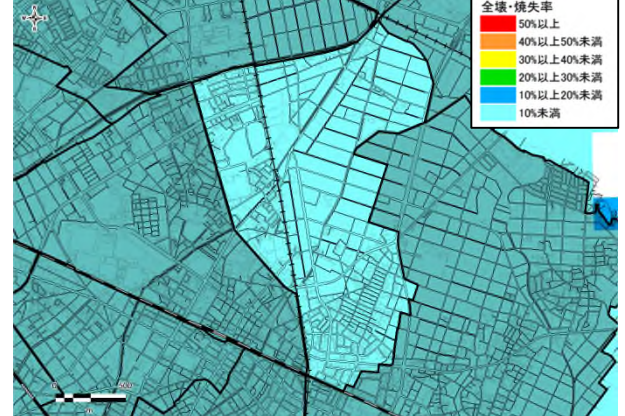
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



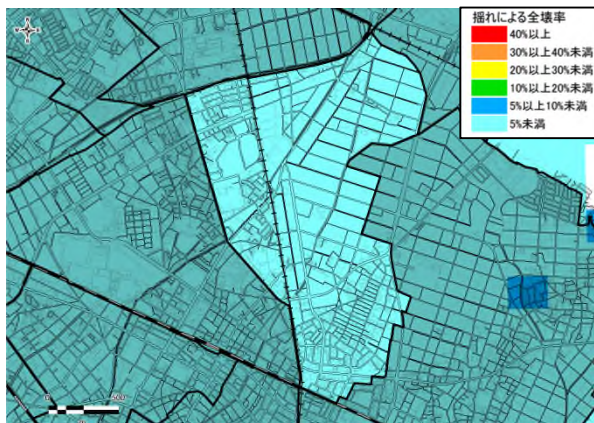
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



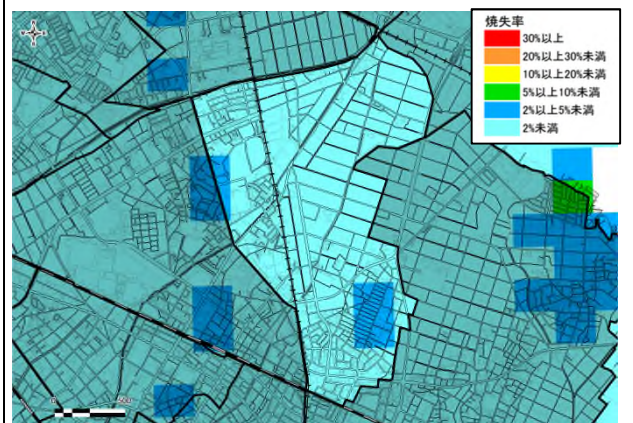
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



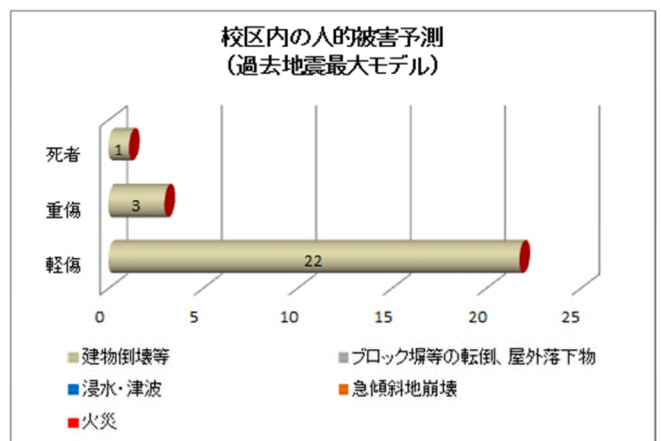
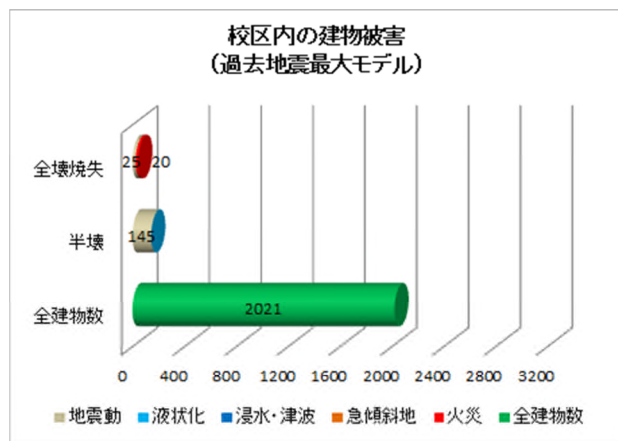
4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

新田小学校校区は、震度 6 弱の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

建物被害【冬・夕方発災】 ※()内は、校区の建物棟数2,021棟に対する割合			人的被害【冬・深夜発災】 ※()内は、校区の深夜人口6,512人に対する割合			
	全壊・焼失	半壊		死者数	重傷者数	軽傷者数
地震動	25	145	建物倒壊等 (うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	1	3	22
液状化	*	*	ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	(1)	(3)
浸水・津波	0	0	浸水・津波	0	*	*
急傾斜地	0	0	急傾斜地崩壊	0	*	*
火災	20	—	火災	*	*	*
建物被害総数	45(2.2%)	145(7.1%)	被害者数合計	1(0.02%)	3(0.05%)	22(0.33%)

*：わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
新田小学校校区	228	137	91	916	458	458	228	68	160
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

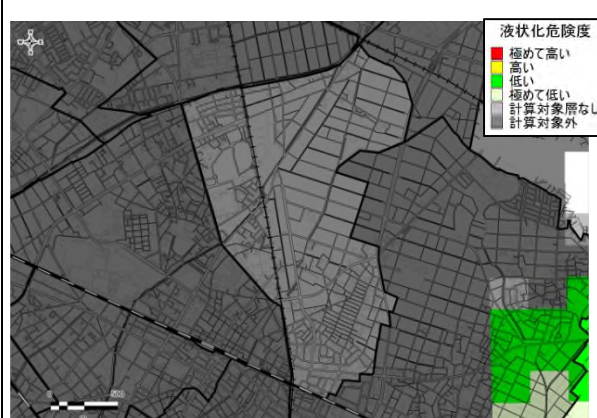
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

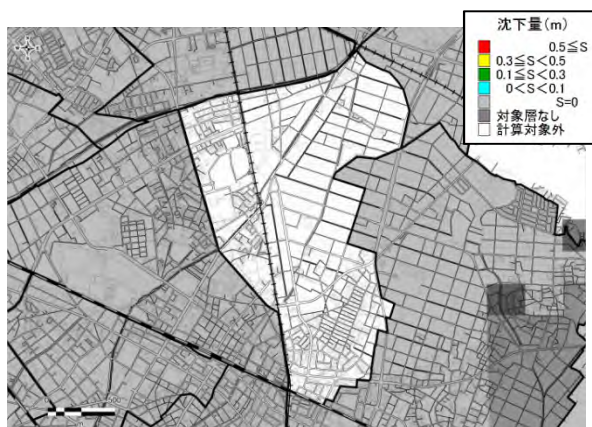
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



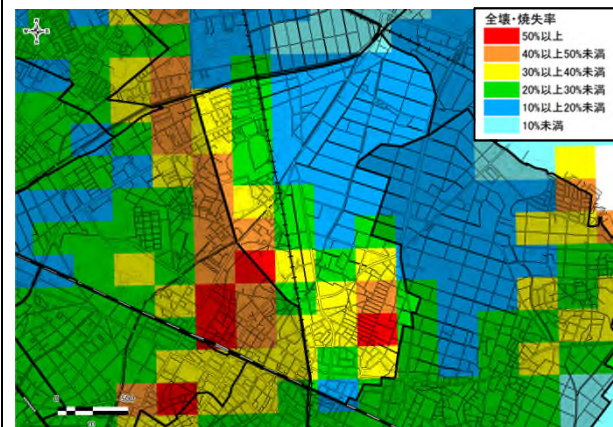
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



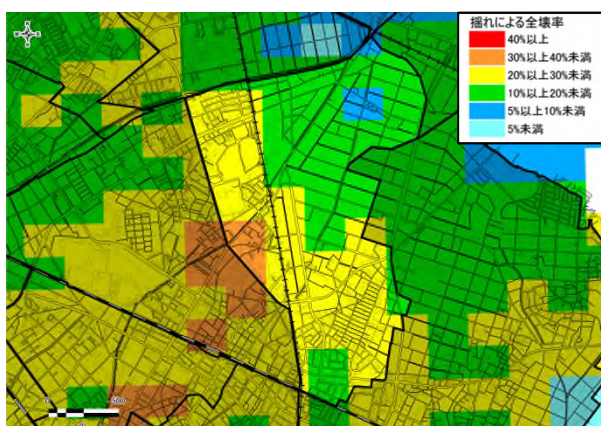
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



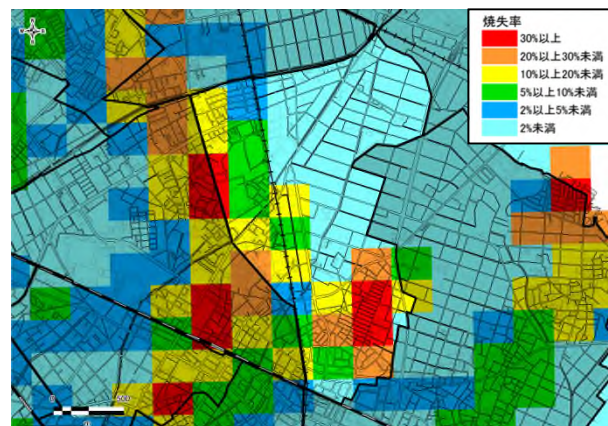
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

新田小学校区は、震度 6 強から一部で震度 7 の揺れが想定されている。はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、校区が台地上にあるため、液状化の対象となっていない。

<建物・人的被害の予測>

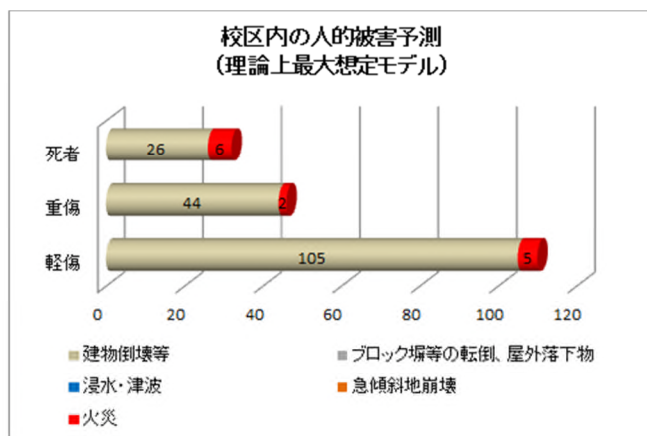
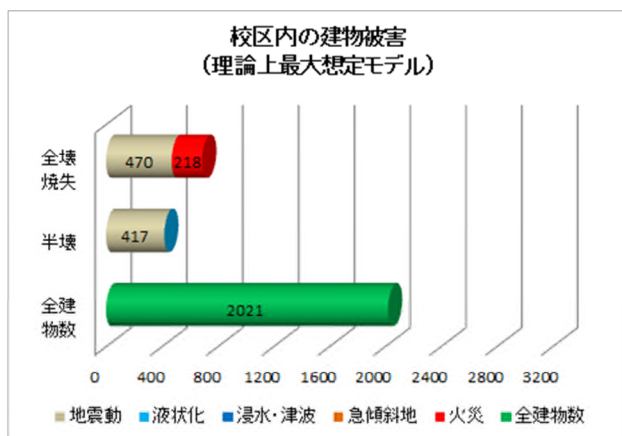
単位:(棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,021棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	470	417
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	218	—
建物被害総数	689(34.1%)	417(20.6%)

単位:(人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口6,512人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	26	44	105
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(2)	(9)	(29)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	6	2	5
被害者数合計	32(0.49%)	46(0.71%)	109(1.68%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	競技場前交番
緊急時ヘリポート可能箇所	総合運動公園
消防署	—
消防団	新田分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	安城北中学校
自主防災組織数	2
防災倉庫・防災資材庫	新田小学校、安城北中学校、中部公民館、 安城市体育館、青少年の家、中部福祉センター
応急給水施設	新田小学校、安城北中学校、中部公民館、 安城市体育館、中部福祉センター、中部配水場
井戸	3
マンホールトイレ	安城北中学校
学校	新田小学校、安城北中学校
保育園	新田保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	中部公民館、青少年の家、中部福祉センター

※大規模災害時にのみ開設される救護所

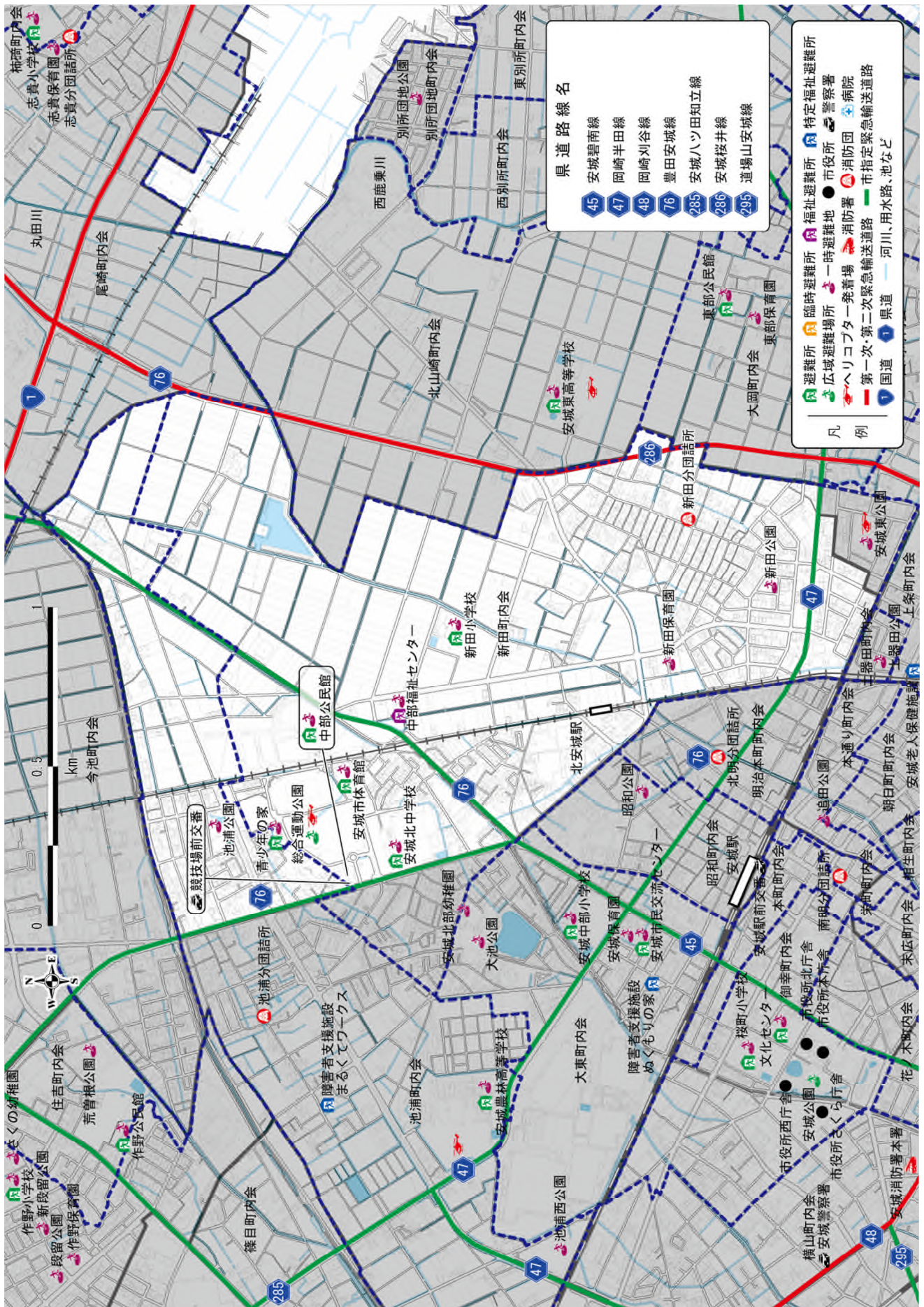
7. 避難所等一覧

避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	新田小学校	76-1488	新田町新栄 100	270
		安城北中学校	75-3525	新田町小山西 18	810
		中部公民館	74-8570	新田町小山西 83	400
		安城市体育館	75-3535	新田町新定山 41-8	1,890
		青少年の家	76-3432	新田町池田上 1	220
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉	中部福祉センター	76-0090	新田町新栄 84-1	120
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[㎡]
	広域	総合運動公園		新田町池田上 1	200,400
	一時	新田公園		新明町 21-1	2,500
		池浦公園		池浦町池東 13-1	4,600
		新田小学校		新田町新栄 100	8,400
		安城北中学校		新田町小山西 18	13,300
		中部公民館		新田町小山西 83	—
		安城市体育館		新田町新定山 41-8	—
		青少年の家		新田町池田上 1	—
		中部福祉センター		新田町新栄 84-1	1,200
		新田保育園		新田町郷西 99	1,700

8. 防災上の課題

- ・昭和 56 年以前に建築された木造住宅が多い地区となっており、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 9%、理論上最大想定モデルで約 55%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 4 人、理論上最大想定モデルで 70 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進める必要がある。
- ・木造住宅の割合が約 69%あることから、火災による人的被害では理論上最大想定モデルで死者数、重傷者数が 8 人となる想定が出ている。火災による人的被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



平成28年8月配布
安城市危機管理課